

普段、僕は『失敗学のすすめ』という話で、津波をみんながどうやって無視していくかという話をしていたら、NHKの人がそれだけは何かあったら、きちんと行ってほしいと。過去の人たちがきちんと教えてくれた事をバカにしたり、甘く見たりする時にみんな死ぬというのを言うてくれと言われて、今ようやく言えました。それくらいにロングスパンで、ちゃんと考えていないといけない。

それから、立派な防潮堤というのはほとんど無意味だから、早く止めなさいと。それは、お金をかけてその時だけ済んだような気がするけれど、地域を破壊するものでしかないのです。もう海岸が使えないのです。ですから、そんなものを造るのは無駄だから、そのうちきつと壊してしまおうというプロジェクトが出てくると思います。

そういう事をみんな知ってみると、先ほど言ったようなシェルターとしてのきのこを作るのがいちばんいいというのが、僕がもう20年か30年ずっと考えてきた結論なのです。そうしたら、やはりこの前のスマトラ島の時は、モスクの上に行った人だけが助かったと思っているので、実際にあのくらいのコンクリートの構造物を基礎まできっちり造っておくと、津波では絶対に倒れません。きちんと調べれば、強度計算をしても大丈夫だと思うので、一回やってみてほしいのです。たった10メートルのもので250人くらいの人が助かるのなら、無駄だと思ってもやってみておいて、損はないのではないかと思います。

**【小出】** 確かに、昔の知恵というので、宮古のここから下には家を建てるなどというのがあります。私も実際に災害の被災をしています、たとえば大地震ですと、古いお寺やお城や神社というのは、ほとんど壊れないのです。それ以外が壊滅するということは、本当に昔の知恵で大事なものはいちばん地盤が固いところにある。耐震装置をやっても地盤が駄目なところは耐震装置をくっつけたままひっくり返るわけです。地震といえば耐震装置と今は言っているけれども、地震のほとんどは地盤であると。神戸の現場でも感じたのですが、六甲山麓の金持ちの方々が住んでいる所はほとんど無傷です。それで、中産階級からもう少し下の方の所が壊滅するわけですよ。だから、もと

もと日本では、伝統的に古い地名に何ともいえない意味が込められていたと思うのです。それをどんどん地名を変えて、何でもかんでも自由が丘とか、安全が丘というのは聞いた事がないですが、しゃれた名前になってしまって、その土地がわからなくなってしまうのです。見てくれだけで耐震装置をくっつけさえすればと言って、そのまま流れたりするという事の繰り返しで、ここから下には家を建てるなどといういちばん大事な情報が伝わっていない。この精神風土というか、経済風土と言ってもいいと思います。これは、変えるべきだと思うのですが、どう対応したらいいと思われませんか。竹村さんどうぞ。



**【竹村】** 私は過去150年間の異常な人口増加、江戸時代は、かなり人為的なバースコントロールがありましたけれども、3000万程度で日本列島の自然資本の中で生きられる人口だったわけですが、急に黒船が来て以降、外部から資源を導入して、一気に人口爆発が起こって、100年ちょっとで1億2000万を超えてしまった。僕は、これはこの日本の特異点の時代だと思います。あと100年後に700万に下がって行って、2000年のグラフを見るとこの200年くらいは日本文明の特異点だったと思います。その特異点のいちばんの問題は人口圧力があまりにも強くて、僕たちの先輩はその計画案が全て、人口圧力に負けていったというのが思いです。僕たちの先輩がいう最大の欠陥は、人口圧力に抗しきれなかったというのが総括です。ただし、それはやむを得なかったことなので、それと同じ事を後輩のこれからの人たちがやったら、本当のバカです。人口圧力はなくなるの